



題子、山名、雄

第43号

平成 3 年 9 月 10 日

発行 者
〒371

群馬県山岳連盟
前橋市大手町1丁目1-1
群馬県庁観光課内

TEL
編 集

(0272)23-1111
群馬岳連編集委員会

印刷 所

責任者 羽野 順一
森 田 印 刷
<定価 1部 100円>

事業部活動について



事業部長 須田 栄一

岳連専門部としての歴史は部会の中では最も浅く、スタートして間もない部である。

事業として、現在は「群馬の山カレンター」の製作、販売を行ない四年目を迎えた。

一九八八年(昭和六三年)岳連の事業計画によりカレンターの販売案が盛上がり同年の総会でこの計画が認められ、遭難対策部に在籍のまま、私(群馬むすびの会)と長谷川勇氏(中之条山の会)が兼任し、第一作目のカレンターが出来た。

翌年一九八九年(平成元年)の総会で新たに事業部の新設が認められ、須田、長谷川氏(会計)の他に真下富夫氏(群馬登高会)が加わり、三名によって事業部がスタートし運営されている。

第一作目は一五〇〇部を作り、加盟山岳会の販売協力をお願いすると同時にマスコミによるPR、各種大会の会場販売等により初回として一応の目的を達成し利益を得ることができた。

しかし初めての試みであったので、この年の進呈はPRを兼ねる意味からも予想以上に多かった。

二作目からは群馬岳連の遠征登山隊の写真を一枚入れるようになり一〇〇部増刷し一六〇〇部の販売を現在行なっている。

作品の応募は原則として群馬の山&ヒマラヤとして、各山岳会へ依頼して製作にあたっているが、応募作品は多いものの応募者は毎回限られた人のように思われる。

しかし、回を重ねることにより作品の内容は向上している。

五作目の製作準備に入っている現在、カレンターは売れ行きも伸びているためそれなりに増刷の計画もたて、より内容の充実した素晴らしい作品にしていこうという事業部としての努力と売上げ増を目標に製作着手の予定である。

最後に現在の問題点と今後の課題を述べておきたい。

売上金の回収については皆様の協力に感謝しておりますが一部山岳会においては再三再四の請求にもかかわらず一〇ヶ月も遅滞することがあり決算に支障をきたすとともに、印刷会社への支払いも遅れがちになっていきますので、今後とも入金は速やかにお願ひします。

応募写真について考えてみますと、現状の限られた応募者では現在はまだ良いが将来的には作品の広がりには限度がある。

本県は自然豊かな被写体に恵まれているので、岳連内でのみの応募ではなく、広く一般からの作品も募るようにすることが必要かと思われる。

又、岳連隊以外の各会の遠征の作品も応募されるよう希望している。

良い作品を作り、部数を増やして、より販売網を拡大していきたいと事業部一同努力していますので応募の程宜しくお願いします。

応募要領

- サイズ……四ツ切横位置
- 白黒ならベストですがカラープリント・スライドフィルムでも可。
- お気軽に応募して下さい。期待しています！

第二回山田昇記念杯

登山競争大会

一期日 平成三年九月二十九日(日)

二会場 川場村武尊山三コース

○登山競争の部

武尊山自然休養林駐車場→前武尊山→沖武尊山→剣ヶ峰山→高山山→武尊高原川場キャンプ場
距離一四・八km

○一般参加の部

高山山新道コース(川場キャンプ場→高山山→剣ヶ峰山→川場キャンプ場)
距離一〇km

四日程

○六時〜七時 選手受付及び計量

○七時〜七時二十分 開会式(川場キャンプ場)

○七時三十分〜八時 マイクロでスタート地点(自然休養林駐車場)

○七時四十五分 一般参加の部スタート(川場キャンプ場)

○八時三十分 山田昇記念杯登山競争の部スタート(自然休養林駐車場)

○八時四十分 三枝照雄賞の部スタート(自然休養林駐車場)

○十五時三十分〜十六時 表彰式及び閉会式(川場キャンプ場)

五参加資格

○登山競争の部

①山田昇記念杯の部 大会当日において満十九才以上の者

②三枝照雄賞の部 大会当日に

おいて高校生及び満十九才未満の者

○一般参加の部

大会当日において満一〇才以上の者。ただし十五才未満の者が参加する場合には家族が同伴すること。

六参加料

○登山競争の部
①山田昇記念杯 二〇〇〇円
②三枝照雄賞 一〇〇〇円

○一般参加の部 一〇〇〇円

※参加料には傷害保険料が含まれています。

七表彰

○山田昇記念杯の部
第一位に山田昇記念杯(レプリカを授与) 次回に返還

○三枝照雄賞の部
第一位に三枝照雄賞(次回返還)

○山田昇記念杯の部及び三枝照雄賞の部第一位から第六位までに賞状を授与する。

○山田昇記念杯の部第二位から第三位まで、三枝照雄賞の部第一位から第三位までに賞を授与する。その他特別賞及び完走者全員への完走証は大会終了後一ヶ月以内に成績表と共に送付する。

八登山競争の方法

○個人単位とする。

○順位はタイム・レースとし、二ヶ所のチェック・ポイントを経

てゴールまでの所要時間の少ない者が決定する。

○スタートは一斉スタートとする。

○計量はスタート前とゴール後に行う。

山田昇記念杯の部

男子一〇kg、女子五kg
三枝照雄賞の部

男子一〇kg、女子五kg

○ゴール後の計量で規定重量に満たない場合は一kgごとに一〇分の時間をゴール到着時間に追加する。

○失格

他の競技者の競技を妨げる行為をした場合、不正な条件で出場した場合、競技規則に反した時、競技運営に支障のある行為があったとき。

競技役員、審判員の指示に反したとき。

スタートから前武尊山頂まで九〇分以上経過した者、またスタートしてから六時間を経過した者。

ゴール後の計量で規定重量に二kg以上満たない場合、危険な行為があったとき、自然保護に反する行為があったとき。

ゼッケンを着用しなかったとき、棄権

選手は体調その他の理由で競技を放棄するときは、スタート前に審判員に口頭で連絡、スタート後は審判員役員に連絡する。

冬期サガルマータ南西壁

登山隊長 八木原 啓明



藤田弘基氏撮影

一九八四年(昭和五十九年)三月の理事会において「十年後にエベレスト登山を実施したい。今の中学生や高校生がヒマラヤ登山を志した時に登れるように、十年先を展望し、ネパール政府から許可を得ておきたい」と提案し、了解を得た。

すぐに前年秋にローツェを、冬にエベレストの登山を終えてから家族と共にネパールを歩いていた宮崎勉海外登山研究会副委員長(当時)に連絡をし、ネパール政府観光省に仮申請をしてもらった。

その八四、五年冬のアンナプルナI峰南壁登山に失敗し、八七、八年冬に再挑戦する時、もしアンナプルナ南壁の冬期初登攀が外国隊により果たされてしまった場合を考え、その秋にアンナプルナ南壁をトレーニング的に登り、続く冬にエベレスト南西壁を登る計画を第二案としてネパール観光省に申請をし、「一九八六年九月十六日付」でその登山許可を一旦は得たのであった。

しかし、冬のアンナプルナ南壁は私共群馬岳連隊の失敗後、ブルガリア隊、スイス隊と退け続け、ルで開かれた。

一九八四年(昭和五十九年)三月の理事会において「十年後にエベレスト登山を実施したい。今の中学生や高校生がヒマラヤ登山を志した時に登れるように、十年先を展望し、ネパール政府から許可を得ておきたい」と提案し、了解を得た。

すぐに前年秋にローツェを、冬にエベレストの登山を終えてから家族と共にネパールを歩いていた宮崎勉海外登山研究会副委員長(当時)に連絡をし、ネパール政府観光省に仮申請をしてもらった。

その八四、五年冬のアンナプルナI峰南壁登山に失敗し、八七、八年冬に再挑戦する時、もしアンナプルナ南壁の冬期初登攀が外国隊により果たされてしまった場合を考え、その秋にアンナプルナ南壁をトレーニング的に登り、続く冬にエベレスト南西壁を登る計画を第二案としてネパール観光省に申請をし、「一九八六年九月十六日付」でその登山許可を一旦は得たのであった。

しかし、冬のアンナプルナ南壁は私共群馬岳連隊の失敗後、ブルガリア隊、スイス隊と退け続け、ルで開かれた。

冬期登攀は果たされずに残されていた。そのためにエベレストの冬期登山は次の目標とし、一九九〇、九一年冬へ変更し、冬のアンナプルナ南壁へ向かったのがあった。アンナプルナ登山の結果はすでに御承知の通りであるが、山田昇、三枝照雄、小林俊之、斎藤安平の四名が一九八七年十二月二十日に登頂したが、下山中に小林、斎藤が相次いで転落死亡してしまった。この二名の遭難により「エベレスト南西壁登山も延期せざるを得まい。しかし、いつ実施できるだろうか」と考えていたのである。ところが今度は一九八九年二月の山田、三枝らの厳寒のマツキンリーにおける遭難死という、再び我々を奈落の底へ突き落とす事故が起き、その感をさらに強くしていたのであった。

群馬のヒマラヤ登山の中核会員、の相次ぐ不幸により、自分自身が直接関することもなくなってしまうのではないかとさえ考えた。その頃であった。

しかし海外登山研究会としてはあくまで、一九九一年、九二年の冬期に実行の線は立てることなく、これまでのヒマラヤ登山と同じように準備を進め、数名の研究会員は岳連外のヒマラヤ登山隊に参加して力を蓄え、着実にその実施に向けての態勢を整えてきた。

一九九〇年四月十日、スポーツニッポン(スポニチ)新聞社前橋支局の開説披露の会が前橋のホテルで開かれた。

招かれていた星野会長が牧内節男、スポニチ東京本社社長との懇談の際に「来年は岳連創立五〇周年の年にあたる。それを記念してサガルマータ(エベレスト)南西壁の冬期登山を計画している。南西壁の冬期登攀はまだ誰も成功してない」と話すと、牧内社長は「昔は毎日新聞社がマナスル登山などを応援してきた。わかりましたその計画をわが社が全面的に応援しましょう」と応じ、サガルマータ南西壁登山計画が急速に現実のものとなったのであった。スポニチ社は毎日新聞の系列会社である。サガルマータ南西壁という難ルートに解決されるとあり、やっと大計画の前進に光明が見えたのであった。これが一挙に解決されるとあり、やっと大計画の前進に光明が見えたのであった。

計画は最終的には群馬県山岳連盟、スポーツニッポン新聞東京本社、それとこれまでの群馬のヒマラヤ登山を全面的に支援してきた上毛新聞社の三者による共催となり、本一九九一年から九二年にかけての冬に実施されることになったのである。

以上簡単に「冬期サガルマータ南西壁」登山計画の経緯を記したが、次にサガルマータ登山計画を簡単に説明したい。

こゝまで「エベレスト」と「サガルマータ」を混然と使ってきたが、これからは全てサガルマータで統一して行く。

エベレストとはインド測量局の第二代長官であったジョージ・エベレストというイギリス人の名前である。

一九四九、五〇年(昭和二十五)の測量で、それまでビーク(十五)の仮番号名称であったが、測量数値の計算の結果、五二年にこれが世界最高峰であることが発見され、現地名が分らなかつたため、先代長官のエベレストの名前を与え、名称は固定してきたが、一九六五年にそれを正式名称とした。

しかしチベット語でチョモランマという名前があることが判明し、ネパールでもサガルマータという名前が使われているのが分り、両国ではこれが使われはじめた。

一九八三年八月二十六日、ネパール観光省は新山名と新標高も発表し、これまでエベレストと呼ばれていたこの山は、サンスクリット語からきたネパール語の「サガルマータ」の呼称を正式名とした。これはネパールのナシヨナリズムの台頭と無縁ではない。

サガルは天空、世界の意味で、マータは語源的には母の意味で、「世界の頂上」あるいは「母なる天空」の意味である。チョモランマは世界の母なる女神という意味である。

登山隊は隊員十九名で、星野光岳連会長を総隊長に八木原が隊長、尾形好雄副隊長、名塚秀二登攀隊長という布陣である。

岳連の実行委員会は委員長に星野光、顧問は中曽根弘文岳連顧問、副委員長は中島晋代志、石井謙一郎、小林三雄の三岳連副会長と田中成幸理事長、太田忠行、樋口宗平の二副理事長である。登山隊後援会長は小寺弘之知事に就任していた。

隊員の海外登山経験は松崎が初であるだけで、他の隊員は数度から十数度の経験者である。副隊長の尾形と四名の隊員は日本ヒマラヤ協会(HAJ)の会員でもある。尾形は一九八一年春のカンチエンジュンガ縦走隊員であり、私も同行しており、ヤルン・カン側からの縦走隊リーダーとして一緒に登頂している。この時山田昇(沼田)、鈴木茂、太田がカンチの主峰に登頂している。

他の四隊員もHAJの会員として私の良く知る男達である。経験が豊富で優れた実績をもち、安心して一緒に登れる人柄の男ばかりである。

ドクターの吉村哲明は一昨年の八九年秋にサガルマータ南東稜に行ったことのある「登れるお医者さん」であり、八六〇〇まで到達したが、悪天で引返している。今回も自ら志願し、私のところへ電話をしてきて「先ず八木原隊長の考えを聞かせて欲しい。医師はBCなり、C1にいてそれ以上登るな、という考え方でなければ参加させて下さい」と言ってきた。三〇のドクターである。私に異論は全くなかった。頼もしい医師である。

○五月三日。
悪天候のため停滞
○五月四日。
八方池山荘七時三十分
八方ケルン八時十五分
丸山ケルン十時三十分
唐松小屋十一時二十五分
唐松小屋十一時五十分
唐松小屋十三時
五竜山荘十五時五十分
○五月五日。
五竜山荘六時五十分
五竜岳七時三十分
北尾根の頭十時三十五分
キレット小屋十三時五十分
キレット通過十四時五十分
鹿島槍南峰十七時
冷地山荘十八時二十分
○五月六日。
冷地山荘八時十分
赤岩尾根西俣出合十時十五分
大谷原十時四十五分
以上記 洪沢真一

五十年誌購入のお願い

七月に発行されました群馬県山岳連盟創立五十周年記念誌は、上製本三〇〇頁の立派な本に出来上りました。これは岳連加盟の各山岳会会員をはじめ、関係各位の大変な努力と御協力によるものであります。

内容についてはすでに御承知の方も多いかと思いますが、カラーグラビアをはじめ、岳連発足の貴重な記録、群馬県内を中心とした海外登山の輝かしい実績、日本国内に於ける群馬岳連会員の初

登攀記録をまじえた素晴らしい山行、加盟各山岳会の歴史とその業績の数々。その他県内の主な記録、日本及び世界の登山史等をまとめた「年表」等に見るべきものがあります。その他にも研究、資料等にもいろんな点で参考になるかと思えます。

岳連会員には一人一冊是非購入していただき、岳連以外の人達や、他県の友人知人に対しても内容を良く説明の上で御紹介して読んでいただくようお願いし、多数の方々にお知らせして読んでいただくことが出来れば本当の意味でこの記念誌を発行した意義があるかと思えます。

尚価格の一部三千円です。申し込み先については群馬県山岳連盟役員または、左記に申し込んで下さい。

○八木原明
昼夜〇二七一一三三二二六八三
○羽野順一
昼(鶴谷病院)
〇二七〇七四〇一六七〇
夜(自宅)
〇二七〇七四一五三三



山行記録募集

岳連会員の山行記録を領呂に携載する企画を行なっています。

内容については特に規定はありません。記録は出来れば最近の山行が良いのですが、少々古くてもかまいません。各会より多数の原稿を募集しています。是非編集部までお知らせ下さい。

平成3年度群馬県山岳連盟行事一覧表

月	総務部・自然保護部	編集部	遭難対策部	指導部	海外登山部	国体部	事業部	その他
4	11 理事会	岳連50周年記念誌発行準備	21 新隊員訓練(裏妙義)			7 日山協国体委員総会 13~14 県民体育大会2部 山岳競技会(榛名山)		
5	8 理事会 26 日山協総会	岳連50周年記念誌発行準備	19 一般対象講習会(谷川岳)	19 雪上技術講習会(谷川岳) 21 指導員総会 2 日山協指導委員会総会	8~9 日山協海外委員総会(東京)			13~15 県高校総体(赤城山)
6	環境週間・尾瀬三持堀り 23 理事会・総会	岳連50周年記念誌発行準備	5~6 全国遭難対策協議会(長野市) 日山協遭難対策研究会議	2 日山協指導委員会総会 9 岩登り技術講習会(黒岩) 25~26 天気図講習会			平成4年度カレンダー 写真締切	
7	5~7 全日本登山体育大会(山梨) 7 谷川岳安全登山の日 10 理事会 14 創立50周年記念式典		7 隊員訓練(谷川岳)			26~28 国体関東地区大会(埼玉県・小鹿野町)		31~8/4 全国高校総体(静岡県)
8	14 理事会	嶺呂42号発行		24~25 指導員研修会			印刷仕上がり1600部	
9	11 理事会 13 山田昇記念杯登山競争大会	嶺呂43号発行	8 隊員訓練(谷川岳)				11 各山岳会へ配布	
10	9 理事会 13 第15回県民登山大会(中之条町)				17~20 ワールド・カップ(東京)	11~16 第46回国体(石川県)		
11	13 理事会			10 ロック・フェスティバル(榛名山・黒岩)				
12	11 理事会	嶺呂44号発行	10 冬山合宿検討会(県体協会館)					
1	9 理事会		21 冬山合宿報告会(県体協会館)					
2	13 理事会			2 氷雪技術講習会(六合村)	22~23 日山協海外技術研究会(八王子)			
3	13 理事会	嶺呂45号発行	1 隊員訓練(谷川岳) 平成4年度年度隊員結団式	8 雪上生活技術講習会(谷川岳)				高体連リーダー講習会

美と健康のお手伝い

ブリジストン自転車
ナショナル自転車
ホンダのオートバイ
サイクルショッポ.

一流メーカーは安心です
ヤギルラ

前橋市下細井町139-3
TEL 0272-31-1308

有限会社 **山とスキーの店**
石井

伊勢崎市中央町18-8